

平成25年度 第3回
「さんかくネット」子育てサポーター研修会

2月28日、弘前市子育てサポートシステム「さんかくネット」の子育てサポーター研修会を市民参画センターで実施しました。

今回は、サポーターより要望のあった「知っておきたい子どもの安全と応急処置」と題して、弘前消防署の櫻庭信人さんと戸沼康さんを講師に迎え、救命救急処置の方法などを学びました。

託児では、乳幼児との関わりが多いため、食べ物などを詰まらせてしまったときの異物の取り方である背部叩打法と、胸部突き上げ法のやり方を学びました。

また心肺蘇生法では、サポーター全員が乳児の人形に実際に触れ、



救命法を真剣に学ぶ
研修会の様子



乳児の人形で練習する
子育てサポーター

胸骨圧迫の力の入れ具合や手順などを何度も確かめていました。

さらに、救急車到着までのわずかな時間（平均8分間）に、居合わせた人が救命処置をすることで、助かる確率が大幅に上がることや、AEDは音声にあわせて指示通り落ち着いて使用すればよいことなどを学びました。

サポーターからは「去年習得したはずの救命法をすっかり忘れていた」「毎年、最低1回は救命に関する研修をやってほしい」「具体的によく理解できた」などの感想が寄せられ、参加した9名のサポーターは、メモを取りながら、真剣に取り組んでいました。

平成26年度 第1回
「さんかくネット」子育てサポーター研修会

6月24日、弘前市子育てサポートシステム「さんかくネット」の子育てサポーター研修会を市民参画センターで実施しました。

今回の研修会は、城東保育園長で、「キッズネットクラス」などのボランティア活動もしている三浦テツさんを講師に招き「子どもとの遊びを楽しむコツ」と題して、子どもへの接し方や、遊び方について学びました。

三浦さんは、柔らかな素材でできた赤や緑の風呂敷をサポーターに配り、まず色から何を想像できるか質問をしました。そして、その答えから会話が広がっていくことや、その風呂敷を使い丸めることで危なくないボールにして遊ぶことができることなど、言葉や手



昆虫観察で命の大切さを
伝えることができることを学ぶ
子育てサポーター



「子どもには
想像を膨らませて
遊んで欲しい」と語る
講師の三浦さん

を使い、おもちゃや道具がない場合でも身近にあるものを利用してコミュニケーションが取れることを紹介しました。

また三浦さんは、大事なものが大切にしているものに子どもが触れようとしたときの接し方について「これはたいせつ、だいじだいじ、やさしくね」と話しかけることや、本当に触れてはいけないものなどには触れさせないように働きかけるなど、さまざまな状況でそれぞれタイプが違う子どもに対する真剣な駆け引きが必要だとアドバイスしました。

参加したサポーターは、三浦さんに質問をするなど、ユーモアと愛情あふれる体談に耳を傾け、日ごろの活動の参考になりたいと聞き入っていました。